

別記  
第1号様式（第14条関係）

### 環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事	2023年 7月 21日
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 岡山県岡山市中区藤崎675-1	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） 株式会社林原 代表取締役社長 安場 直樹

環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	ISO14001
適 用 範 囲	ナガセケムテックス株式会社福知山事業所
導 入 年 月 日	2006年 6月 19日
認 証 番 号	JQCA-E-0753
基 本 方 針	1. 私たちは、環境マネジメントシステムの構築とその継続的改善を行い、環境負荷の低減と環境品質の向上に努めます。 2. 私たちは、環境関連の法規を遵守すると共に、自主基準、業務手順を整備し、環境管理の向上を図り、環境汚染の予防に努めます。 3. 私たちは、環境目標を定め、これらを達成するために開発技術並びに生産技術能力を高め、持続可能な資源の利用、地球温暖化への対策、生物多様性の保全に努めます。 4. 私たちは、社員教育を通じて全社員の環境改善に取り組む意識の向上を図ります。
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	1. 廃棄の削減・抑制 2. 環境汚染防止 3. 法規制管理体制の強化 4. 新規製品開発による環境負荷の軽減 5. 主要製品の生産性改善による環境負荷の軽減 6. 省エネルギー活動の推進
目標を達成するための取組の内容	1. 廃棄の削減・抑制：製造ロスの削減、試験消耗品の削減 2. 環境汚染防止：漏洩防止 3. 法規制管理体制の強化：管理の徹底 4. 新規製品開発による環境負荷の軽減：環境負荷軽減製品開発・販売 5. 主要製品の生産性改善による環境負荷の軽減：環境負荷軽減製品開発・販売 6. 省エネルギー活動の推進：省エネ活動にて取組
目標を達成するための取組の進捗状況	1. 廃棄の削減・抑制：製造工程中の事故の削減・抑制等について取組中。 2. 環境汚染防止：流出防止、溶剤ガス発生の抑制について問題なし。 3. 法規制管理体制の強化：関係法令順守状況の定期見直しを実施。 4. 新規製品開発による環境負荷の軽減：顧客要望に合致し環境負荷にも配慮した新製品の開発に取組中。 5. 主要製品の生産性改善による環境負荷の軽減：工程改善による設備稼働時間当りの出来高改善等検討中。 6. 省エネルギー活動の推進：省エネ活動にて取組中。
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	2022年度、生産量は増え、廃棄物量は減少しています。又、原単位は単年度、5年度間平均ともに減少しています。効率生産、生産性向上、省エネ活動等による使用エネルギー削減に向けた継続的な取組の結果が表れており、当社の事業活動が地球環境に貢献していると考えています。
事業活動に係る法令の遵守の状況	関連法規の遵守状況について6カ月毎に確認を行っている。 違反及び行政当局からの指摘はなかった。
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	1. 認証取得後、17年が経過し、JCQAの審査も問題なく終了しています。また、今回の報告から各部署で環境活動に熱心に取組まれていることが理解できます。よって、当事業所の環境マネジメントシステムは有効に機能していると判断する。 2. 提案された継続的改善に対する決定⇒各部署で目標達成に取り組む。環境にやさしい酵素の市場展開を図り、SDGsへの貢献に取り組む。排水処理に負荷がかかっているが、今後の生産量増加を考えると、抜本的な対策を講じる必要がある。各部署が連携して協力し、処理負荷を下げる工程改善に取り組む。他マネジメントシステムと連携し事業所の目標達成にむけて取組む。 3. 環境方針・環境目標・経営資源・利害関係者を含む環境マネジメントシステムに関連するあらゆる変更の必要性⇒環境目標については、経営計画を踏まえた変更を行う。 4. 環境目的が達成されていない場合の処置の方法⇒環境目的は達成されていると考える。 5. 環境方針・リーダーシップ・コミットメントのような環境マネジメントシステムの戦略的な方向性に関する事項⇒現在、環境に配慮した豊かな社会の実現が求められている。2021年度から始まっている中期経営計画「ACE 2.0」のあるべき姿「三つのイノベーション(マーケット・プロダクト・プロセス)による顧客への価値提供、SDGsへの貢献、社会への貢献をすること」を継続する。カーボンニュートラルへの取り組みを加速、浸透させる。

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。